

5章1節 各実践

5章1節1 「簡易版授業デザインシート」の読み方、使い方

ここでは、研究会で用いた「授業デザインシート」の読み方、使い方を説明します。具体的な使用例は後に続く各実践をご覧ください。この説明は、柞磨（2020：126-144）[1]を参考にしています。

科目[] 授業者：		学期期末	年生	クラス
本質的な問い	「何のために学ぶのか」という問いの核になるもの。			
達成目標	① ② ③	下記「問いの構造化」や「生徒の変容」と関連した目標の記述。		
論点 (深めるために)	複数の観点を組み合わせて論じる必要のある論点を記述する。			
実践の振り返り	① ② ③	上記「達成目標」との関連の中で、教師や生徒の振り返りを記述する。		
問いの構造化				
	Ideas	Connections	Extensions	
導入展開の問い	②○○○○○… ③○○○○○…	①○○○○○…		
洞察を促す問い	授業で扱う問いを書き込んでいきます。問いの質と授業の展開に応じて問いを書く場所を変えます。「洞察を促す問い」は学びを深めるための議論を要するような問いです。扱う問いの順番を数字で示します。Eの問いから順番に考えて行くと、学びの流れを意識することができます。			
本質的な問い				
生徒の変容 (ICE ルーブリック)				
	Ideas	Connections	Extensions	
教科・科目に特有の知識・技能				
教科・科目に特有の見方・考え方	生徒の変容を記述します。横が学びの質、縦が観点となります。観点ごとに記述したICEルーブリックに相当します。「問いの構造化」や「扱う内容」、「達成目標」と関連します。			
汎用的な能力				

1 柞磨昭孝（2020）「生徒も教師も楽しめる問いづくりの実践 学びが変わる問いのフレームワーク」日本橋出版

5章1節2 現代文(小説)「デューク」

授業者：酒井将平 1学期期末 2年生2クラス

本質的な問い	近くに大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいた場合、どう接することができるか？ 江國香織（1996）『デューク』「つめたいよるに」新潮文庫,p.11-20		
達成目標	① 登場人物の心情を、情景描写や比喩などから推測することができる。 ② 物語の「ドラマを生み出す仕掛け」を生かして、自分の生活を演出することができる。 ③ 大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。		
論点 (深めるために)	死別を「思い出」にすることはできるか？		
実践の振り返り	①これまで読んだ文章と比較することで情景描写、比喩について考えを深めていた。 ②「ドラマを生み出す仕掛け」というものの見方で物語を見つめはじめていた。 ③生活や社会とつなげて文章を読むことに意義を感じながら取り組んでくれた。		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い		②あなたは「少年」が自分の正体をばらしたかどうかを判断する立場にあります。あなたはどちらだと判断しますか？	①辛いこともいつかはよい思い出になると言いますが、大切な存在を失った経験でも、いつかはいい思い出になると思いませんか？
洞察を促す問い	③本文中の2つの「悲しみ」に違いはありますか？	④「少年」は「私」をとても愛していました。それにもかかわらず、「私」を直接元気づけたり、励ましたりしないのはなぜでしょう？	
本質的な問い	⑤「私」の気持ちはどのように変化していきますか？	⑥大切な人を亡くしたとき、悲しみだけでなく、なぜ「怒り」や「自責の念」のようなものが生まれるのでしょうか？	⑦もし近くに、大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいたら、あなたならどう接しますか？
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	情景描写や比喩の機能やメリットを説明できる。	情景描写や比喩と登場人物の気持ちや言動を関係づけることができる。	情景描写や比喩を用いることで、相手の心を動かすことができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	作品の中に仕掛けられた「ドラマを生み出す仕掛け」を指摘できる。	「ドラマを生み出す仕掛け」について、そのからくりを他の物語や実生活との関係から分析することができる。	「ドラマを生み出す仕掛け」を生かして、自分の生活を演出することができる。
汎用的な能力	超高齢化社会において死別と向き合うことの大切さを認識する。	大切な存在を失った人がどのような気持ちの変化をたどるかを予想することができる。	大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。

5章1節3 現代文(評論)「物語を発現する力」

授業者：酒井将平 2学期期末 2年生2クラス

本質的な問い	「物語を発現する力」に限界はあるか？ 佐藤雅彦(2011)『物語を発現する力』「考えの整頓」暮しの手帖社,p.45-55		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①接続語に注目して文章の要点を関係づけることができる。 ②「物語を発現する力」を活用して、作品を創作することができる。 ③学んだ概念を他の「文脈」に当てはめて検討することができる。 		
論点 (深めるために)	「因果応報」は知っている。それでも、つい「悪い」ことをしてしまうのはなぜ？		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ①接続語に注目した学びのデザインにすることで、「読む」学びの大きな流れを改めて整理することができた。 ②創作活動を取り入れた楽しい学びを普段の授業の一コマにするには、一年間のデザインが大切であることがわかった。 ③異なる「文脈」に当てはめることの大切さと、担当者間の協力によって継続的な取り組みにできる可能性を感じた。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	<ul style="list-style-type: none"> ②AとBの間にどんな接続語が使われているか？ ④「物語を発現する力」に関して、筆者はどんな仮説を立てましたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ①「因果応報」という考え方にはどんないいことがあるだろう？ ③その接続語はどんな関係を表しているか？ 	
洞察を促す問い		<ul style="list-style-type: none"> ⑤「物語を発現する力」によって、本文の中の断片的なエピソードからどんなことが推測できますか？ ⑦「因果応報」を知っているのに、ついやってしまうのはなぜ？ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥「物語を発現する力」を用いて4コマ漫画を作ってみよう。
本質的な問い		<ul style="list-style-type: none"> ⑧「物語を発現する力」を物語以外に当てはめることは可能か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨「物語を発現する力」に限界はあるか？
生徒の変容(ICEルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	文中の接続語に注目して前後の内容の関係を特定することができる。	接続語に注目して文章の要点を関係づけることができる。	接続語を上手に使い、効果的な文章を書くことができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	「物語を発現する力」について筆者の言葉を使って説明することができる。	「物語を発現する力」について、具体例を用いて例証することができる。	「物語を発現する力」を活用して、作品を創作することができる。
汎用的な能力	学んだ概念について説明できる。	学んだ概念について具体例を示すことができる。	学んだ概念を他の「文脈」に当てはめて検討することができる。

5章1節4 世界史B「大航海時代」

授業者：坂田 匡史 通年 2年生全クラス

本質的な問い	結局、大航海時代は何をもたらしたか。		
達成目標	① なぜ、大航海時代が始まったかについて説明することができる。 ② 大航海時代の推移を踏まえて、その影響を述べることができる。		
論点 (深めるために)	本時では「大航海時代の影響」について、特にウォーラステインの「近代世界システム論」を題材に世界の一体化について考察させる。新大陸の「発見」や新航路の開拓により西ヨーロッパを中心とする世界経済圏が形成されていったが、世界の一体化の「はじまり」ははたして大航海時代と言えるのかについて考察する。		
実践の振り返り	① 各地域の諸世界の存在や海域市場への参入という生徒にとって難しい概念を扱ったことで、難しさを感じるようであった。 ② 世界の一体化の起源について、近代システム論を軸に考察できた。		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	① 大航海時代はヨーロッパにどのような影響をもたらしたか。 ② 大航海時代はアメリカ大陸にどのような影響をもたらしたか。	③ ガマの航海はどのようにしてカリカットに到達したか。	
洞察を促す問い	⑥ 近代世界システム論とは何か。 ⑦ では、なぜ洋服や個人の自由や資本主義といった西洋起源の文化や考え方が世界のスタンダードとなっているのであろうか。	④ ガマのカリカット到達や日本への鉄砲伝来は、ポルトガル人だけ実現可能な行動であったか。	
本質的な問い		⑤ モンゴル帝国の交易ネットワークや明の海域世界は、大航海時代と言えるか。	⑧ ポルトガルやスペインの新航路の開拓は、世界の一体化にどの程度影響を与えたか。
生徒の変容 (ICE ループリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	・大航海時代の影響について説明することができた。	・大航海時代の影響について、近代世界システム論と関連付けることができた。	・大航海時代の影響や意義について、史実に即して、自らの考察を論じることができた。
教科・科目に特有の見方・考え方	・大航海時代の影響や意義について、史実に即してヨーロッパ側の視点だけでなく、諸地域との関わりの視点を持つことができた。	・大航海時代の影響や意義について、史実に即して自己の立場を明らかにすることができた。	・大航海時代の影響や意義について、史実に即して歴史像を描くことができた。
汎用的な能力	・史実に即して、大航海時代について定義することができた。	・史実に即して、大航海時代の影響について構造的に解釈することができた。	・史実に即して、大航海時代について再構成することができた。

5章1節5 世界史B「第一次世界大戦の勃発」

授業者：坂田 匡史 通年 2年生全クラス

本質的な問い	サラエヴォ事件は、第一次世界大戦の勃発にどの程度(how far)作用したか。		
達成目標	① なぜ第一次世界大戦が勃発したか、歴史的推移について説明することができる。 ② 国際的地位・世論についての概念的理解を深めることができる。		
論点 (深めるために)	本時では「なぜ第一次世界大戦は起こったか」をオーストリアの国際的地位やバルカン戦争をめぐる国際情勢の変化からオーストリアのセルビアへの攻撃を題材に「第3次バルカン戦争ではなく、世界大戦と発展したのはなぜか」(洞察を促す問い)を考察させる。この問いは第一次世界大戦の「蓋然性」を問うものであり、局地的な紛争にとどまらず世界大戦へと発展していったのはなぜかを考えさせる。		
実践の振り返り	① 第一次世界大戦の蓋然性について、歴史的事実を追究する必然性が生まれた。 ② 歴史的事象において批判的思考を働かせることができた一方で、知識の活用や表現の難しさを実感した。		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	②なぜバルカン半島の情勢が、「ヨーロッパの火薬庫」とよばれるのか。	①第一次世界大戦に至る列強間の国際関係は、どのように変化したか。	
洞察を促す問い	③オーストリアの国際的地位はどのように変化したと捉えられたか。	④第3次バルカン戦争ではなく、世界大戦へと発展したのはなぜか。	
本質的な問い		⑥列強各国の国民は戦争の勃発をどのように捉えたか。	⑤サラエヴォ事件は、第一次世界大戦の勃発にどの程度(how far)作用したか。
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	・第一次世界大戦の勃発に至る歴史的推移について述べることができた。	・第一次世界大戦の勃発に至る歴史的推移について、バルカン半島をめぐる国際情勢の影響と関連付けることができた。	・第一次世界大戦の勃発について、多面的・多角的に考察して自らの考えを深めることができた。
教科・科目に特有の見方・考え方	・第一次世界大戦の勃発について、同盟国・連合国双方の視点に立つことができた。	・第一次世界大戦の勃発について、史実に即して分析し、自らの考えを作ることができた。	・自らの考えを説明したうえで、他者と議論し、新たな視点を見いだすことができた。
汎用的な能力	・史実に即して、蓋然性を分析・検討することができた。	・史実に即して、蓋然性に関する自らの考えを作ることができた。	・史実に即して、蓋然性の評価を再構築することができた。

5章1節6 物理基礎「効率のよいバトンパスとは」

授業者：佐藤充恵 1学期期末 1年生

本質的な問い	「物体の運動を予測する」とはどういうことなのか？		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 既習の知識を使って自分の意見を構築できる。 ② 他者の観点を取り入れることができる。 ③ 別々の事象を比較し、共通点、相違点を明らかにできる。 ④ 自分の考え（仮説）のポイントを明確にするための実験を考案できる。 		
論点 (深めるために)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を知る手がかり（物理量）はどうやったら明らかにできるだろうか。 ・別々の運動を同時に表現するための工夫はないか？ 		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① 2種類のバトンパスを比較した気づきと、自分の考える効率の良さとを結びつけて意見を作ることができた。 ② 走者の動画から直接測ることができた物理量を整理し可視化することで、さらに気づきを促す資料を作成することができた。 ③ 別々の運動を同時に予測し、運動のつながりを最大化する方法を考案できた。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	②どちらのバトンパスが効率が良いと感じたか？その理由は？	④バトンを受け取る側の走り出しがなぜ勝敗を分けるのか？	
洞察を促す問い		⑥なぜグラフは重要なのか？どのようなグラフが必要だろうか？	①⑦2人の走りが最大に生かされるバトンパスの方法とは？
本質的な問い	③効率の良さって何だろう？	⑤運動の予測において、それぞれの物理量はどのように関わっていくのか？	⑧物体の運動を予測するとはどういうことなのか？
生徒の変容（ICE ルーブリック）			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	運動に関わる物理量の定義を具体化して説明する。	法則やグラフを共通言語として活用し、各物理量が運動にどのように関わっているのか、他者と議論をする。	日常にある物体の運動を、物理の問題として捉え、今まで疑問に思わなかったことに疑問を持つようになる。
教科・科目に特有の見方・考え方	実験結果（現象）を適切に記録、表現できたか？	現象と法則の因果関係を考えることができたか？	自分の考えのポイントを明確にする実験の考案ができたか？
汎用的な能力	<率先・好奇心・探究心> 率先して行動したか？ 知りたい、という気持ちを持てたか？	<問題解決・論理的思考> 矛盾なく論理的に展開されているか？他者の視点を取り込めたか？	<問題発見・批判的思考> 自分の問いを立てることができたか？考えを再構築できたか？

5章1節7 物理基礎「等速度運動を学ぶ意義」

授業者：杉田俊也 2学期 1年生 クラス1-1

本質的な問い	「なぜ実現困難な等速度運動が、運動学の最初に学習する具体的な運動なのか」（本時）		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 英文を読み、速度が変化する複雑な運動も微小時間に分けて考えればほぼ等速度運動をしており、その総和をとることによって物体の変位を求めることができるを見いだすことができる。 ② 定積分により微小量の総和をとることができる。 ③ 定積分により、これまでとは違う方法で速度が変化する場合の物体の変位を求めることができる。 		
論点 (深めるために)	等速度運動は実現しにくい運動だが、具体的な運動として最初に学習するのは、ただ単に扱いが簡単であるという点以外に、学問的により深い意味があるのではないか。		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① 数学科との連携、英語科との連携と2パターンで授業を実施し、生徒の様子を観察していたが、いずれも生徒たちにとっては認知的にかなりの負荷がかかった。 ② Eフェーズに到達できた自己評価する生徒の人数は少なく、知識を汎用的に援用することができるようにするためには、今後も同様の授業実践が必要である。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い		① 運動学の最初に学習する具体的な運動が、なぜ実現しにくい等速度運動なのか。あなたの考えを記入しなさい。	
洞察を促す問い	③ 二次関数などの曲線で囲まれる部分の面積を計算するには、どうすればよいか。	② 等速度運動は実現が困難であるにもかかわらず、具体的な運動として最初に学ぶ意義について、物理の知識を関連付けながら英文を読み見いだしなさい。	
本質的な問い		③ 定積分の計算を導入し、速度が変化する物体の変位を求めなさい。	④ 本時で学習した定積分の考え方を他の学問や社会のことに応用するとしたら、どのようなものが考えられるか検討しなさい。
生徒の変容 (ICE ループリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書を用いながら英文を読解することができる。 ・ 数学の定積分の計算をすることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理の知識を関連付けながら英文を読み、問いの答えを見いだすことができる。 ・ 定積分の計算を物理の変位の計算に応用し、変位を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定積分の考え方を物理や数学から離れ、他の学問や社会のことに応用することができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある物理量が一定の場合や一定の割合で変化する場合の総量の求め方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理量が変化する場合も微小区間では一定量として捉えることができ、総和をとることによって総量を求めることができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理の文脈を離れ、様々な状況で物事を微小量に分けて捉える考え方、そしてその総和をとり、総量を求める考え方を応用することができる。
汎用的な能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに学習した概念を学習した文脈で適用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに学習した概念を既存の概念構造に組み込んで再構造化し、これまで解釈してきた物事を新たな視点から解釈することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに学習した概念を離れた文脈で応用し、課題を解決することができる。

5章1節8 物理基礎「力のつり合い」

授業者：杉田俊也 2学期 1年生 クラス1-7

本質的な問い	フックの法則がある範囲で様々な素材で成り立つ、汎用性の高い法則であることを学ぶ。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①実験を通し、フックの法則がある範囲で様々な素材で成立することを理解するとともに、適用限界（弾性限界）があることも実感を伴って理解する。 ②グラフから「言い得ること」と「推測できること」を峻別し、英語で表現することができる。 ③物質の弾性の特質を理解したうえで、その有効な活用について考案することができる。 		
論点 (深めるために)	フックの法則が成立するものの例として、ばねやゴムなどの弾みが感じられるものを挙げるができるが、弾みを感じられない他のものでも成立するのだろうか。		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① 1時間の中で実験を行って結果をグラフ化し、そこから「言い得ること」と「推測できること」を峻別して英文で表現するのは、生徒たちにとっては大変であった。 ②「関連付ける力」でEフェーズに到達できたと教員評価をした生徒の人数は、前回クロスカリキュラムを実施したときよりも増加し、実施の効果が見られた。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い		①フックの法則が成立するものにはどんなものがあるか。あなたの考えを記入しなさい。	
洞察を促す問い	②実験から得られたデータを基に、グラフを作成しなさい。	②実験で得られたグラフから、「言い得ること」と「推測できること」を見だし、各自それぞれ少なくとも1文ずつ英語で表現しなさい。	
本質的な問い			④本時で学習した物質の弾性を社会や身の回りの課題に関連付け、解決策を考えな
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを辞書を用いながら英語で表現することができる。 ・実験を行い、得られた値をグラフ化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験によって得られたグラフから「言い得ること」と「推測できること」を見出し、英語で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の弾性を社会や身の回りの課題に関連付け、解決策を考えることができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果をグラフで表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「言い得ること」と自身の推測が混じる「推測できること」を峻別したうえで、実験によって明らかになったことを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した概念を社会的な課題に関連付け、解決策を考案することができる。
汎用的な能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の概念を確認、あるいは拡張するために必要な情報を得るための実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに明らかになった事実から既存の概念の拡張の必要性を認識し、概念の再体制化をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな事実を基に更新された概念を離れた文脈で応用し、これまで解決できなかった課題を解決することができる。

5章1節9 物理「運動とエネルギー」

授業者：佐藤充恵 1 学期期末 2 年生

本質的な問い	弾む、弾まない、とは？		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 既習の知識を使って自分の意見を構築できる。 ② 他者の観点を取り入れることができる。 ③ 別々の事象を比較し、共通点、相違点を明らかにできる。 ④ ポイントを明確にするための実験を考案できる。 		
論点 (深めるために)	<ul style="list-style-type: none"> ・床に衝突するとき、どのような力がはたらくのか？ ・失った位置エネルギーはどこに行くのか？ 		
実践の振り返り	<ol style="list-style-type: none"> ① どちらが弾むかどうか、エネルギーの移り変わりから予測できていた。 ② 弾むボールと弾まないボールの違いを明確にするための実験を考案できた。 ③ カプセルの中での運動を、スローモーション動画などで比較し、弾まないカプセルの設計に役立てていた。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い		① 惑星探査機に搭載されている ターゲットマーカー は、なぜ弾まないように設計する必要があるのか？	
洞察を促す問い	② ②についての実験から、2つの事象の共通点や相違点はあったか？	③ カプセルが弾まないようにするためには、弾むボールと弾まないボール、どちらを入れたほうが良いか？	④ どうすれば自分の立てたストーリーが正しいかを確認することができるだろうか？
本質的な問い		⑤ 弾む、弾まない、に関わる要素は何か？	⑥ 弾まないカプセルを設計する。
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	ニュートンの運動の法則力学的エネルギーについて、それぞれ具体例を挙げて説明できるか？	カプセルの弾み方とニュートンの運動の法則や力学的エネルギーを関連付けて説明できるか？	弾まない要素を整理し、弾まないカプセルを設計できるか？
教科・科目に特有の見方・考え方	実験結果（現象）を適切に記録、表現できたか？	現象と法則の因果関係を考えることができたか？	自分の考えのポイントを明確にする実験の考案ができたか？
汎用的な能力	<率先・好奇心・探究心> 率先して行動したか？ 知りたい、という気持ちを持ってたか？	<問題解決・論理的思考> 論理的に問題ないストーリーを構築できたか？他者の視点を取り込めたか？	<問題発見・批判的思考> 自分の問いを立てることができたか？考えを再構築できたか？

5章1節10 家庭基礎「食生活 衣生活領域」

授業者：田尻美千子 高校1年生

本質的な問い	生涯の健康を見据えた食生活実現のために、あなたが実践することは何だろうか？		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①健康な食生活のために必要な基礎知識を、自分の生活場面で生かすことができる。 ②技術定着につながる家庭実践ができる。 ③多文化理解の視点を持つことができる。 		
論点 (深めるために)	よりよい食習慣形成につながる要素は何かがあるのか？		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産的な質問作成の意義を理解し、協働的な態度で取り組んでいた。 ② 食生活の課題解決につながるよう、家庭実践へとつなげていた。 ③ 調理実習の要素などを経て、多文化への理解が深まった。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	<ul style="list-style-type: none"> ①健康って何だろう？ ②食生活に関する基礎知識をどうやったら効率的に伝えられるか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ③食生活に関する知識理解を深めるためには、どんな質問をしたらいいか？ 	
洞察を促す問い	<ul style="list-style-type: none"> ④食生活に関する基礎知識の質問を、ICEの3つに分類すると、どれに当てはまる？ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤質問をそのフェーズに分類したのはなぜ？ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥あなたの食習慣はどの程度健康ですか？
本質的な問い			<ul style="list-style-type: none"> ⑦生涯の健康につながるよりよい食習慣形成のために、あなたはどんな実践に取り組むか？
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	健康のための3要素(栄養・運動・休養)を指摘できる。	自分の生活リズムやスタイルから、自分の食習慣を評価することができる。	自分の生活リズムやスタイルを分析し、必要な栄養素を踏まえた食習慣を提案できる。
教科・科目に特有の見方・考え方	理想的で継続的な生活習慣が健康をもたらすことを認識する。	現在の生活習慣を将来の健康と結びつけて評価することができる。	生涯の健康のために、その人の現状に合わせた生活習慣の改善策を提案することができる。
汎用的な能力	根拠に基づいて意見を述べることができる。	課題を分析することができる。	解決策を提案することができる。

5章1節11 探究ナビ I 「対話的に学ぶとはどういうことか」

授業者：酒井将平 他 1年間 1年生全クラス

本質的な問い	対話的に他者と向き合い、自分を変えていくことができる。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 問いをつながけながら探究活動をする中で、新しい価値を生み出すような問いを立てることができる。 ② 自己と他者の間に生じるジレンマを引き受け、他者を肯定的に受け止めて協働し、創造的な活動を行うことができる。 ③ 集団活動における役割分担の中で、相手が情報を発信しやすいように、また、相手が受け止めやすいように働きかけることができる。 		
論点 (深めるために)	自分と他者が対立したとき、どちらかを優先することが本当にできるか？		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業の意義を理解し、自問しながら取り組んでいた。 ② 振り返り用紙を工夫することで、協働、創造に対する意欲が見られた。 ③ 「リーダーとして」よりも「ファシリテーターとして」の働きかけが見られた。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	② コミュニケーションゲームをうまくやるコツは？	<ul style="list-style-type: none"> ③ 失敗は必ず起こるが、できる限りやりとりを成立させるためには、どうすればいい？ ④ 日常で、やりとりが成立しないのはどんなとき？ 	① コミュニケーションが上手な人ってどんな人？
洞察を促す問い	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 災害時に気をつけるべきことは何？ ⑧ いくつ仕事を知ってますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 同じグループの2人の考えが対立しているとき、あなたはどうする？ ⑨ あの子が憧れてる仕事はどんな感じ？ 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 災害時、あなたならどう行動する？ ⑩ もし、プロとして職業説明会に呼ばれたら？
本質的な問い	⑪ 面白い劇ってどんな劇？	⑬ あなたにとって対話的であるとはどういうことですか？	⑫ 観ている人を楽しませるために、どんな劇をつくることができますか？
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	自分の知らないことについて問いを立てることができる。	自分の知りたいことに向けて問いをつながけ、探究することができる。	探究する中で、新たな価値を生み出すような問いを立てることができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	他者を肯定的に受け止める「yes and…」の大切さを認識することができる。	自己と他者の対立やジレンマを乗り越えて協働することができる。	他者を肯定的に受け止めて協働することで、創造的な活動を行うことができる。
汎用的な能力	集団活動における自分の役割を認識できる。	集団活動における役割分担の中で、必要な情報を受け止め、必要な相手に伝えることができる。	集団活動における役割分担の中で、相手が情報を発信しやすいように、また、相手が受け止めやすいように働きかけることができる。

5章1節12 探究ナビⅡ「課題解決」

授業者：酒井将平 他 1年間 2年生全クラス

本質的な問い	当事者の立場を踏まえ、多角的に課題を検討し解決できる。		
達成目標	<p>①KJ法、ロジックツリー、優先度リストなどの課題解決の知識、技術を組み合わせ、実現可能で効果的な解決策を提案することができる。</p> <p>②ワークショップを通して、「自己」と身近な「他者」の双方の立場から世界に関係づけ、価値を創造することができる。</p> <p>③「学び」について自分の観点から捉え直し、自分が何をどのように「する」かについて判断することができる。</p>		
論点 (深めるために)	「わかっているのにできないのはどうして？」		
実践の振り返り	<p>①課題解決のプロセスを意識できるようになったが、創造性とのバランスをとることが難しくなった。</p> <p>②担任や小学生などの「一歩離れた他者」の課題を設定した。実際に解決策を試して効果をフィードバックすることで学びの動機づけとなった。</p> <p>③抽象的な取り組みになってしまったが、進級後の課題を示唆することができた。</p>		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	<p>②KJ法、ロジックツリー、優先度リストとはどのようなものか？</p> <p>④修学旅行先の地域はどんな課題を抱えているだろう？</p>	<p>③クラスや学年で困っていることにどのような解決策を提案できるか？</p>	<p>①担任の先生が困っていることに対して、どのような解決策を提示することができるか？</p>
洞察を促す問い	<p>⑤ワークショップをどのようにデザインするか？</p> <p>⑨「学び」にはどんな力があると思いますか？</p>	<p>⑥どのようなワークショップをすれば、小学生が携帯トラブルに巻き込まれないか？</p> <p>⑩「わかっているにもかかわらずできない」のはなぜだろう？</p>	
本質的な問い		<p>⑪あなたにとって「深い学び」とはどのようなものですか？</p>	<p>⑦ワークショップを実際にやってみて、さらに小学生が学びを深めるためにはどのようにしたらよいか？</p> <p>⑧携帯トラブルに巻き込まれないために自分たちにどんなことができるか？</p>
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	KJ法、ロジックツリー、優先度リストなど、課題解決に資する知識や技術について手順書を真似て使うことができる。	KJ法、ロジックツリー、優先度リストなどを用いて課題を分析し、解決策を提案することができる。	課題解決に資する知識や技術を必要に応じて組み合わせ、実現可能で、効果的な解決策を実践することができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	課題の中に、自己とは異なる他者の存在を認識することができる。	課題に取り組む中で、自己と他者の間に生じるジレンマに向き合い、新たな観点から両者に関係づけることができる。	課題に取り組む中で、自己と他者の間に生じるジレンマを引き受けた解決策を考え、その実践によって新たな価値を創造できる。
汎用的な能力	「学ぶ」とはということか説明することができる。	「わかる」と「できる」ことの違いについて考え、独自の観点から関係づけることができる。	「学び」について考えを深め、自分が「する」ことを判断し、行動できる。

5章1節13 問いづくり「新聞を読み質問力を磨く」

授業者：大村昌代 半期2単位

本質的な問い	問いづくりを通してあなたが明らかにしたいことはどのようなことだろうか。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①新聞を読み社会の中で出来事に疑問を持つ。 ②自分以外の誰かの立場に立って、新聞を読み、問いをできるだけたくさん作る。 ③個人ワーク、グループワークで作った質問（授業外）を他者にわかりやすく伝える（対面授業時、文と口頭発表）。 		
論点 (深めるために)	自分以外の誰かだったら、何が疑問になるだろうか。それはなぜだろうか。		
実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている、わかっていると思っていたことばやことがらが、実は具体的に説明できない知識だったという気づきが生まれるように、語の取り扱いについて何度も問い、促した。 ・表面的な質問から深い質問につながるための模索の状態を壊さないようにした（こうやればよいというような助言はしない）。 		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	<ul style="list-style-type: none"> ①この記事でわからないワードはどれか。 ②自分以外の誰かの気になるキーワードはどれか。 	<ul style="list-style-type: none"> ③自分以外の誰かはこの記事を読んでどんな疑問を持つだろうか。 ④この質問で何が明らかになるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤問いが伝わるように表現するには、何をしたらいいだろうか。
洞察を促す問い	<ul style="list-style-type: none"> ⑥あなたはことばやことがらを知っているか、それは本当か。 ⑦これまでの社会の時間、空間、文化、文脈のなかで、何がな 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧記事に出ていない背景や状況を調べ、解釈しているだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨自分ならばどのような文章（記事）を書かか。
本質的な問い		<ul style="list-style-type: none"> ⑩自分以外の誰かの立場であったら、どうしたいだろうか。 ⑪自分以外の誰かはこれからどう生きていだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫自分以外の人の立場を踏まえ、どうしたら私たちはこれから幸せになれるだろうか。
学生の変容（ICE ルーブリック）			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	ことばやことばについて注意しながら読む。	既知のことばやことばであっても、別の文脈で読み直し、新たな解釈を探る。	深めた知識や情報に新たな解釈と価値を持って、文や口頭で表現する。
教科・科目に特有の見方・考え方	自分以外の誰かの立場で想像しながら読む。	直感や想像も生かしながら、理由や根拠を持って、自分以外の誰かの立場でことばやことばを解釈する。	自分だけでなく、自分以外の誰かがよりよく生きるためにどうしたらよいか提案したり、問題点を表現したりする。
汎用的な能力	よくわからないことばやことがらであっても向き合い、疑問を作ってそこから理解しようとする。	自分の身近にいない人の立場を理解するために、国、時代、言語、文化の異なる人の文脈で具体的な問いを持つ。	様々な視点を使って社会の出来事に疑問を持ち、他者の立場も考慮して、疑問や主張をわかりやすく表現する。

※実施した授業には ICE モデルを適用していない。ICE で授業を振り返るとどうなるかという試みでここに記述した。